

CONTENTS

- 02 10周年 お祝いのことば
阪南大学 国際観光学部教授 来村多加史氏
- 03 10周年記念誌発刊にあたって
NPO法人奈良まほろばソムリエの会 理事長 豊田敏雄
- 04 奈良まほろばソムリエの会とは 鉄田憲男
- 06 奈良まほろばソムリエの会10周年記念座談会 —奈良の未来を想像する—
- 10 TOPICS 顕彰！／発信！／書籍などの刊行で発信
- 12 TOPICS 奈良まほろばかるた／企画！
- 14 TOPICS 学び／シリーズ講演会
- 16 TOPICS 「ゆうドキッ！」出演／書籍紹介
- 17 奈良まほろばソムリエの会10年のあゆみ（2011年～2021年）
- 24 啓発グループ 大山恵功
- 26 保存継承グループ 久門たつお・鈴木英一
- 28 講演・講座グループ 鈴木浩・前田康一・西川誠・福井洋・小野哲朗
- 30 歴史探訪グループ 加藤宣男
- 32 ガイドグループ 三宅 努
- 34 女性グループ（ソムリエンヌ） 道崎美幸
- 35 ふれあい交流会 鉄田憲男
- 36 関東サークル（関東グループ） 原 英男
- 37 歴代役員
- 広報グループ／年表

10周年 お祝いのことば

阪南大学 国際観光学部
教授 来村 多加史 氏



2007年(平成19)に「奈良まほろばソムリエ検定」の第1回検定試験が実施されてから15回目となる2020年度はコロナ禍が巻き起こり、奈良観光にも暗い影を落としましたが、社会は徐々にかつてのペースに戻りつつあります。はじめての奈良まほろばソムリエが誕生してから数えて12年目となる今年、合格者の方々が「奈良まほろばソムリエの会」を結成されて10年目の節目にあたり、より強くコロナ禍からの復活を願う次第であります。

思えば今は昔のことになりますが、検定試験の準備会議において、「奈良を楽しく案内できる人材の育成を目的としましょう」と提案させていただいたことは、はっきりと覚えています。ソムリエ試験のセミナーにおいても、毎年忘れずに申し上げているスローガンです。

検定試験を単なる記憶力試しの場に終わらせてはいけない、との思いを込めて打ち出した方針ではありますが、試験への合格そのものを楽しみにされている方々からは、小言も何度かお聞きしました。それでも初志が間違っていなかったことを、こうして各方面に大活躍をされているソムリエの皆さまのお姿を拝見して確信しております。実を結ぶとは、まさしくこのことを言うのでしょうか。

10周年を迎えるにあたっての祝辞としてはふさわしくありませんが、一言申し添えますと、節目に立って考えるべきことは、次なる10年の課題かと思えます。検定の方針に掲げた「楽しく案内」することの意義と方法を再吟味して発展させることが、何ごとにも負けない丈夫な観光を育てる堅実な道ではないでしょうか。

皆さまにはきっと共感していただけると思いますが、奈良には何度訪れても飽きない魅力があります。表面だけを飾る薄い場所ではないからでしょう。そのような分厚い魅力の層を掘り起こして、「リピーターを増やすこと」を案内することの意義にしませんか。

リピーターを増やす「方法」が難しいのですが、煎じ詰めれば「感動」にあると、長年のガイド経験から思う次第です。「見てよかった」「聞いてよかった」と思わせる感動が「来てよかった」との思いにつながり、もう一度「行きたい」「聞きたい」と願うリピーターを増やすことになるのではと。ただ連れて行くだけ、知識を披露するだけでは、感動は生まれません。音楽コンサートのように、熟達した技術と演出が必要です。間延びする時間を大胆にそぎ落とす自覚も必要です。お連れする相手によってコースや内容を変えるさじ加減も必要でしょう。

そのような技術を皆さままで切磋琢磨していただき、ありがちな「独りよがりな会」にしないようお努め下さい。というような忠言が必要ないことは、「ソムリエの風」を拝見していてわかります。安心してお任せできる方々がお集まりになったことを実感しております。

10周年記念誌発刊にあたって

NPO法人奈良まほろばソムリエの会
理事長 豊田 敏雄



奈良まほろばソムリエの会が、「奈良まほろばソムリエ友の会」結成から10年、「NPO法人奈良まほろばソムリエの会」設立から8年を迎えることが出来たのは、ひとえに関係各位のご指導とご支援の賜と心より感謝申し上げます。

奈良を愛し、奈良に精通した人たちを増やすため、2007年（平成19）に奈良まほろばソムリエ検定が実施され、2009年（平成21）に初のソムリエ合格者が誕生しました。2011年（平成23）2月に奈良商工会議所の呼びかけにより、「ソムリエ合格者の集い」が開催されました。その中でソムリエ友の会設立準備が提案され、同年4月に153人の有志が集まり、ソムリエ友の会を結成。同年6月には、「発足の集い」として第1回総会が開催されました。

それからわずか2年、2013年（平成25）2月には「NPO法人奈良まほろばソムリエの会」が誕生し、任意団体から法人に移行しました。

NPO法人設立後の活動はめざましく、各グループの皆さんは日夜研鑽に励み、その成果は県民の皆さまをはじめ、県下を訪れる多くの皆さまから喜びと称賛をいただいております。

そして2016年（平成28）にはソムリエ友の会結成5周年、NPO法人設立3周年の記念行事を催すことができました。

それから早や5年、順調に活動範囲も拡大し、「NPO法人奈良まほろばソムリエの会」として会員数407人を擁する組織に発展することができました。

ここまで発展できましたのもひとえに、発起人会の一員として、またソムリエ友の会設立後は会長として、更にNPO法人理事長としてご尽力いただいた故小北博孝初代理事長（のち顧問）のご活躍とご指導があればこそ感じております。

記念すべき10周年のこの日を小北顧問とともにお祝いできなかったことが、悔やまれてなりません。

ソムリエの会の基礎を固められた初代小北理事長と、知識や経験を生かした活動を模索し、奈良県の歴史観光の進展のため「記紀万葉シリーズ講演会」を開催するなど活動範囲を広められた鈴木浩前理事長。この両理事長の基本方針を継承しながら、これからも奈良の観光および文化振興のさらに新しい分野を広め、かつ深めながら10周年に恥じない活動を展開してまいり所存でございます。

今後とも引続き皆さまの温かいご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりますが、本誌の制作に当たられた広報グループおよび当会10周年企画チームの皆さまに心から感謝の意を表します。

奈良まほろばソムリエの会とは

奈良まほろばソムリエの会は「奈良まほろばソムリエ検定」(奈良検定)を契機に組織されました。

当初は2011年(平成23)4月29日、同検定の最上級資格である「奈良まほろばソムリエ」合格者同士の親睦・交流団体として「奈良まほろばソムリエ友の会」が発足しました。2013年(同25)2月6日にNPO法人化、その時から、奈良を愛する人なら誰でも入会していただける会といたしました。

会員数は発足当初の153人から407人(2021年4月16日現在)と大きく増えました(うちソムリエ合格者は375人)。

当会にはさまざまな年代の会員がいますが、平均年齢は66.6歳です。人生百年の時代を迎え、「退職後はボランティア活動に励みたい」「心身の健康維持のため屋外で活動したい」「仲間を作りたい」という会員も多いです。

会員の職業を見ても僧侶、神官、画家、音楽家、建築家、教師、パソコン教室インストラクターなど多岐にわたり、さまざまなスキルで当会の運営に協力していただいています。

◆書籍の刊行

当会はこれまでに4冊の本を刊行しました。『奈良「地理・地名・地図」の謎』『奈良の隠れ名所』(以上、実業之日本社刊)、『奈良百寺巡礼』『奈良万葉の旅百首』(以上、京阪奈情報教育出版刊)。いずれも新書本で、「分かりやすい」「気楽に読める」とご好評いただいています。

このうち2021年(令和3)刊行の『奈良万葉の旅百首』は、当会10周年記念事業として企画した本です。60人の会員が分担して県内百首の万葉歌を紹介した本で、「この本を携えて、たくさんの方に県内の万葉ゆかり地を訪ねてもらおう」がコンセプトです。

◆インプットよりアウトプット

当会は社会貢献団体として「インプット(知識習得)よりアウトプット(対外活動)」が合い言葉です。7つのグループに分かれ、いわば「クラブ活動」的に活動しています。中心となるのはガイド、講演、文化財の調査活動です。

当会のガイドは約60人。奈良県内には約1800人(全国で4位)もの観光ボランティアガイドがありますが、当会以外のガイドはほとんど市町村別です。当会だけが市町村境をまたいで、県内全域をカバーしています。様々なコースを基本的にお1人500円で案内いたします。詳しくは32ページをご覧ください。

2019年(令和元)12月7日には、JR西日本のご協力を得て「JR万葉まほろばウォーク」を開催しました(奈良県「文化資源



友の会発足の集い(2011年6月11日)



NPO法人発足祝賀会(2013年5月5日)



JR万葉まほろばウォーク
(2019年12月7日)

活用補助金」採択事業)。

万葉まほろば線(桜井線)の4両編成の新型車両をチャーターして、奈良駅から巻向駅まで乗車。車内では柿の葉ずしのお弁当をいただきながら、車掌のマイクで万葉ミニ講座。巻向駅からはガイドの案内で、万葉歌碑などを訪ねながら山の辺の道を大神神社までウォークする、というツアーで、遠方を含め126人ものご参加をいただきました。

また2020年(同2)10月24日、11月29日、12月13日の3回、「歩く・見る・学ぶ!『日本書紀』物語2020」として、それぞれ飛鳥、橿原、桜井を巡るウォーキングツアーを開催しました(奈良県「文化資源活用補助金」採択事業)。ツアー当日の朝には60分の講演を聞いて、予習してから現地を訪ねていただきました(講師=当会の木村三彦顧問)。

講演活動は奈良の歴史や文化に関するものが中心で、約40人の講師が主に県内と「奈良まほろば館」(東京)で行っています。中には年間50回以上をこなす剛の者もいます。

講演活動の一環として、当会は2014年(平成26)後期から、奈良佐保短期大学に講師を派遣しています。講座名は「奈良の伝統行事」で、現在まで途切れることなく授業が続けられています。

文化財の調査活動は、当会の「保存継承グループ」(33人)が担当しています。今は県指定の史跡や天然記念物などを調査しており、調査終了後には、結果のまとめを報道発表する予定です。

2020年6月には、この調査を契機に仏像の独自取材を積み重ねた同グループの小倉つき子さんが『廃寺のみ仏たちは、今~奈良県東部編』を京阪奈情報教育出版から刊行されました。また同グループは長年にわたり、社寺などの清掃活動に協力しています。

ユニークな取り組みとしては「奈良まほろばかるた」があります。「飛鳥寺日本で一番古い寺」「一年の半分雨の大台ヶ原」など、奈良に関する様々な知識が遊びながら身につくので、県内すべての子ども会に寄贈したほか、1箱1200円で市販しています。

◆Nara観光コンシェルジュアワード

奈良のガイド名人を認定する「Nara観光コンシェルジュアワード」(主催=奈良商工会議所)は、2016年(平成28)1月に始まり、2020年(令和2)3月に終了しました。全5回のコンテストで最優秀賞・優秀賞が選ばれました。

当会は毎回最優秀賞または優秀賞を受賞しており、当会のガイドスキルの高さが実証されました。

このように当会は様々な活動を通じ、社会に貢献しています。今回の創立10周年を機に、これらの活動はますますパワーアップして取り組む所存です。

これからも引き続き、ご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

(鉄田憲男)



JR万葉まほろばウォーク
(2019年12月7日)



『廃寺のみ仏たちは、今』記者発表
(2020年6月22日)



第1回アワードで最優秀賞の
友松洋之子さん(2016年1月11日)

座談会



奈良の未来を想像する

10周年を迎えた今、奈良まほろばソムリエの会が奈良のためにできることは何か。

各グループより会員6人が参集し、

「奈良の魅力とは」「奈良観光の問題点」「問題点を解決するためにソムリエの会でできること」「奈良の未来を想像する」という4つのテーマで座談会を開きました。

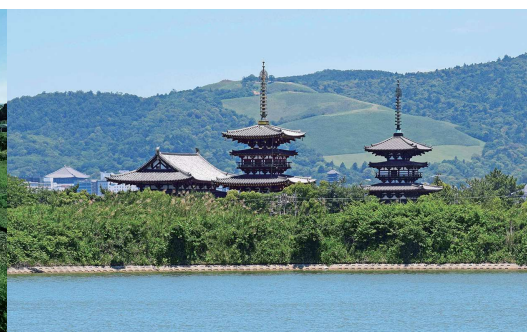
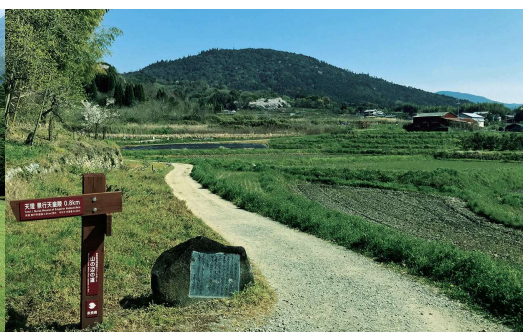
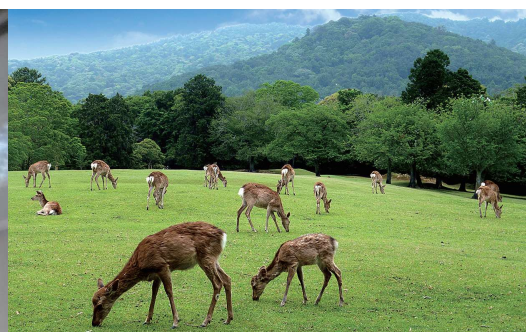
- 〈出演者：敬称略〉
- 中川 崇 ●奈良県議会議員（当時・保存継承グループ）
 - 西川年文 ●関東・中部勤務経験のある元社員（ガイドグループ）
 - 加地潤二 ●海外勤務経験のある元会社役員（講演・講座グループ）
 - 大山恵功 ●元銀行員（啓発グループ）
 - 寺田麻美 ●大阪府在住の会社員（女性グループ）
 - 松森重博 ●会社役員（広報グループ）

進行・まとめ：加藤なほ

撮影：磯兼史洋・増田優子（いずれも広報グループ）

（開催日）2020年10月18日

（開催地）きらっ都・奈良〔BONCHI〕（奈良市）



▶ 奈良の魅力とは ◀



中川 崇
奈良県議会議員
(当時・保存継承グループ)

中川：仕事で東京に住んでいた頃に、ほんやりと「奈良がいいなあ」と思うようになりました。文化が香る、感じるというのが奈良の一つの良さなのではないかと思います。また、他所との比較で言うと、静けさとか、枯れて淡い「枯淡」というか、そういう美しさがあるの

ではないかと最近は感じています。

西川：奈良まほろばソムリエの会（以下、ソムリエの会）でガイドをしていて感じることは、史跡が圧倒的に多いことと、その陰にはロマンがたっぷりであるということです。奈良県内に都があった飛鳥～奈良時代は文字の黎明期にあたるので記録が少ないのですよね。公的な記録がはじめてきたのが奈良時代です。皆さんは自分の想像の範囲で良さを語られますので、正解がないのが面白く、自分のイメージで楽しむことができます。つまり、多様性のある魅力を抱えているのが奈良だと思います。

加地：私は海外勤務などを経て日本の魅力を再確認しました。奈良との最初の出会いは、修学旅行で行った薬師寺、東大寺、興福寺だったと思います。社会人となり奈良周辺に住み始めて、日頃のストレス発散のために奈良の神社仏閣へお参りに行くようになり、それが生活の憩いとなっていきました。

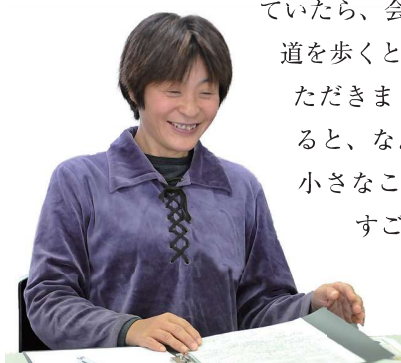
大山：私自身は奈良県内に生まれ育った人間です。自宅近くには大和三大古墳群の一つ、馬見古墳群があります。鉄田憲男専務理事が「奈良に住んでいる人間が全く奈



大山恵功 元銀行員（啓発グループ）

良の魅力がわかっていない」と言っている通りで、学生時代は奈良の良さがわからず、大阪に行くことが多かったです。ところがどこへ行っても「奈良県出身」と告げると「良いところに住んでいますね」と言われることが多かったので、次第に奈良は良いところなのだと気づいていきました。

寺田：私は現在、大阪在住です。奈良に行くようになったのは、10年ほど前に病気になったことがきっかけでした。その後、健康に気を遣うようになっていたら、会社の人から「山の辺の道を歩くといいわよ」と教えていただきました。実際に歩いてみると、なんでもない田園風景が小さなころの思い出と重なり、

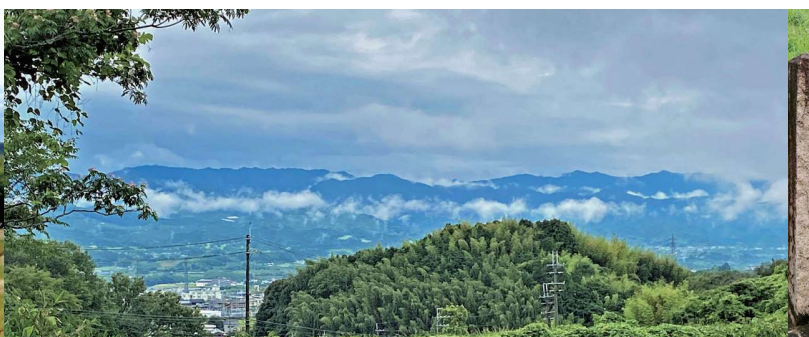
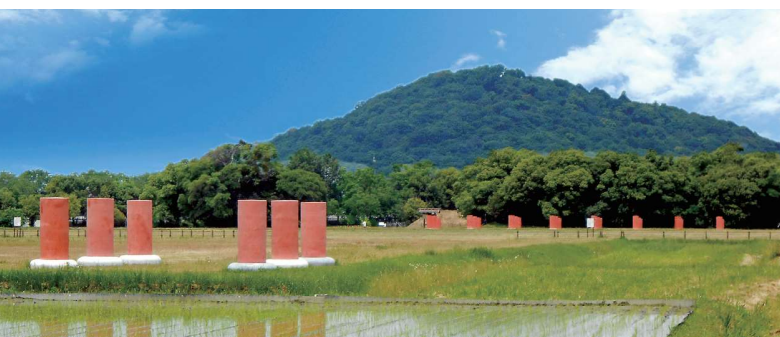


寺田麻美
大阪の会社員（女性グループ）

すごく懐かしく感じられました。そのとき、自分を振り返る場所に会えたと思ったのです。

松森：奈良は非常に観光資源に恵まれている地域だと思います。私は奈良市に生まれ、大学や仕事で東京へ行って、商売を継ぐために帰ってきました。若い頃は奈良の良さがわからなかったのですが、年を重ねていくうちに、奈良は良いところだと思うようになりました。





▶ 奈良観光の問題点 ◀

中川：保存継承グループの活動では、観光のあり方について考えさせられることがありました。様々な調査を通して気づくことは、観光はいろんな足腰の上に成り立っている「上澄みの部分」に過ぎないのではないかとということです。奈良観光の問題点、すなわち、奈良の問題点そのものとも言えます。

具体的には、文化を受け継いでいくコミュニティそのものの存続が難しくなっていることです。その地域に住み続けることや、誇りを持って自分たちの文化を受け継いで、それを磨きながら暮らしていくことがしにくくなっているのではないかと。そういう細かな問題の積み上げの末に、奈良観光の問題があると思っています。

松森：中川さんが、観光の問題＝全体の問題になるのではないかとされたことに私も同感です。

商売をする上では、観光客というよりは地元の人が相手ですが、荒井正吾奈良県知事もおっしゃっているように買い物は大阪へ流出しています。

また、集落では年配の人が残り、若者が流出して人口が減少している地域があります。一方で川上村や東吉野村などでは、土地の魅力に気づいて移り住む若者もいるようです。

奈良観光の問題を考えると、今まではアピールが少なかったのではないかと思います。今後は若者が住みたくするようなアピールをもっとしていくことが必要なのではないかと実感しています。

大山：私が気になっていることは、果たしてこのまま奈良の良さって続いていくの？ ということ

です。奈良は奈良市内だけに限らず、飛鳥、吉野、宇陀、葛城など各地に魅力があります。ところが、それぞれの地域へのアクセスがスムーズではありません。それが問題だと



加地潤二 海外勤務経験あり
(講演・講座グループ)

感じています。

加地：観光の問題点としては宿泊施設の問題もありますね。

2020年(令和2)にJWマリオット・ホテル奈良ができました。京都の国際会館のように国際会議ができるようになり、世界規模の学会が集まれば、会議後に奈良県を巡っていただくことができます。そういった大規模な宿泊施設のあることが改善する一つの方法だと思います。

寺田：数年前に奈良へ遊びに行って思ったのは、お店の閉店時間が早いことです。喫茶店のラストオーダーが18時で、当時はそれがカルチャーショックでした。最近は夜に営業するお店や若者にも人気のお店が増えてきています。寺社の魅力も併せて温故知新で、そういった今の奈良の魅力をもっと発信できたらと思っています。

西川：東京の女性いわく、奈良にふらっと遊びに行ったとき、お土産は何を買うのかというと、圧倒的にお菓子だとか。ですが、奈良の土産物は保存がきかないものが多いらしいです。そういうちょっとしたスイーツ関係のお土産があるといいなおっしゃっていました。



西川年文
関東・中部勤務経験あり
(ガイドグループ)

松森：最近奈良も注目され、魅力が発信されるようになったと思います。一方で奈良の人が奈良のことを知らず、それが当たり前と思って生活しているため、奈良の良さを感じなくなってきました。あるいは良さを皆さんに伝えようとしなくなっているようです。

もっと奈良の良さを奈良の人が発信していかなければならないと思います。



▶問題点を解決するために ソムリエの会でできること◀

中川：先ほど松森さんが言われた通り、内側から外側に発信するのは大事だと思いますが、それと同時に、内側への啓発というのも車の両輪のようなイメージで大事だと考えています。例えば、子供たちの教育に組み込むとか、小さい頃から奈良に誇りを持つような良いサイクルを生み出す取り組みを、ソムリエの会でできたらと思います。

寺田：女性グループ「ソムリエンヌ」が軸にしているのは、子どもへの支援活動です。夏休みを中心に、橿原市の歴史博物館とコラボして、子どもとその家族を対象にした体験イベントを企画したり、「奈良まほろばかるた」を使ったかるた大会などを定期的に開催したりしています。他のグループは大人が対象なのですが、ソムリエンヌは主に子どもを対象としています。活動を継続することによって5年先、10年先の未来へと繋がるのではないかと思います、各グループと連携しながら企画しています。

西川：ガイドグループの中にPRチームがあります。今はスマホ一つで発信できる時代ですから、不特定多数の人に発信できる便利なSNSのツールをもっと活用していこうと考えています。まずはミクロから始めて、将来的にマクロの組織として発信することを最終目標に見据えています。

松森：そうですね。広報グループでは将来的にはソムリエの会の組織力を使ってSNSを活用した発信ができればと思っています。

ソムリエの会が奈良観光、奈良の人のために何ができるかと考えると、会員は歴史や文化に限らず、奈良の地理、気候など幅広いジャンルの知識も有していますので、そういった総合的な知識を活かし、奈良に住んでいる人だけでなく、来る人のためになりたいですね。



松森重博
会社役員（広報グループ）

▶奈良の未来を想像する◀

加地：今日のテーマについて、仲川げん奈良市長は「未来志向で奈良市を活性化する」と言っていました。ソムリエの会として、奈良県や各市町村の観光課とのコミュニケーションの場をいただき、意見交換を通じて未来を模索していけたらと思います。

中川：ソムリエの会としては、良い意味で行政への啓発や研修にも使ってもらえるような存在になっていけたらいいのではないかと考えています。

奈良まほろばソムリエ検定のソムリエ試験のあり方に可能性を感じています。試験では半日コースのガイドをするストーリーを自分で考える記述問題があります。これがとてもいいと思っています。ソムリエの会には企画・立案する能力に長けた方がたくさんいるので、行政の皆さんには、オーダーメイドでストーリーを作って提供できます。それがソムリエの会の強みだと思います。

松森：奈良検定は奈良商工会議所が14年前に始めたのですが、試験問題の出題対象を奈良県全域としたことが良かったのではないかと思います。今後はソムリエの会だけに限らず、地域の方とも連動し、ガイドや講座を通じて次世代に伝えていく、子どもたちが奈良を好きになるように、未来を想像してつないでいく。そのような役割をソムリエの会は求められていると思います。

ソムリエの会が設立され10年が経ち、活動が活発になり大いに期待されるようになりました。さらに次の10年も頑張りましょう。



顕彰!

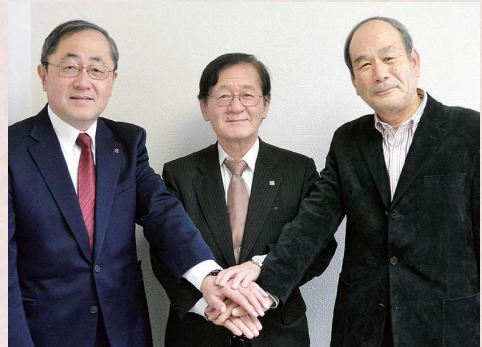
第7回地域再生大賞を受賞

2017年(平成29)2月、共同通信社と全国の地方新聞社が主催する「第7回地域再生大賞」で、NPO法人奈良まほろぼソムリエの会は優秀賞を受賞しました。

各県の地方新聞社が「地域活性に取り組む団体」を推薦し、審査、顕彰する制度です。当会は奈良新聞社の推薦を受けて選考を受けました。

鈴木浩理事長(当時)と鉄田憲男専務理事が奈良新聞社を訪れ、甘利治夫代表取締役(当時)にお礼を伝えました。鈴木理事長は「人を育てながら地域の歴史や文化を伝え、観光に貢献するとの会の活動が評価されて、うれしい」と語りました。

奈良新聞社で甘利氏と



地域再生大賞
(2017年2月17日)

発信! 新聞連載で発信

産経新聞 「なら再発見」

県民の生活や社寺の祭祀に使われている「モノ」などをとおして、歴史と奈良の魅力に迫りました。この視点が斬新で、その紹介は各地で歓迎されました。

2012年(平成24)10月から2015年(平成27)3月まで、15人の会員の執筆で連載は115回を数えました。



東吉野村



安倍文殊院



法隆寺

毎日新聞 「ディスカバー! 奈良」

県下の観光スポットや行事・伝統芸能を紹介しました。あまり知られていないおすすめポイントやよく知られている行事も新しい視点で見つめなおしました。

2017年(平成29)1月から2019年(平成31)3月まで、23人の会員が執筆して108回の連載となりました。

毎日新聞 「やまと百寺参り」

『奈良百寺巡礼』の発刊を記念し、毎日新聞奈良版で「やまと百寺参り」の連載を行いました。

2019年(平成31)4月から2021年(令和3)3月まで、42人の会員で93回の連載となりました。

書籍などの刊行で発信

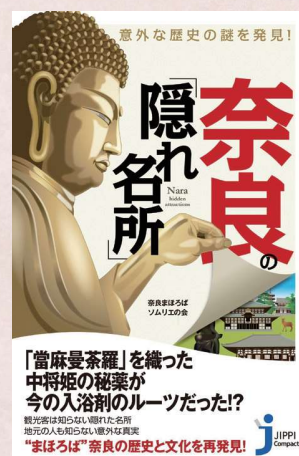
2014年（平成26）に『奈良「地理・地名・地図」の謎』（じっぴコンパクト新書）を監修、発刊しました。

奈良版は東京、大阪、京都に続くもので、奈良の魅力は海外でも注目され、台湾語版も刊行されました。



2016年（平成28）に『意外な歴史の謎を発見！奈良の「隠れ名所』』を、じっぴコンパクト新書にて発刊しました。

産経新聞で連載された「なら再発見」のダイジェスト版です。



2018年（平成30）1月、「奈良まほろばかるた」を制作しました。

奈良の歴史、神社仏閣、史跡など奈良の誇りとなるものを取り上げて読み札を作成しました。絵札は絵本画家のなかじまゆたかさんに描いていただきました（制作＝啓発グループ）。



編集委員会

2019年（平成31）2月に、『お寺参りが楽しくなる 奈良百寺巡礼』（京阪奈新書）を発刊しました。

和辻哲郎の『古寺巡礼』発刊百周年にちなみ、百という数字も意識して企画しました。和辻哲郎も取り上げなかった数多くの魅力ある寺院や仏像を紹介しました。



県文化教育記者クラブでの発表

42人の会員で執筆して、8人の編集委員の作業で短期間に刊行を成しとげました。売れ行きは好調で、重版出来となりました。



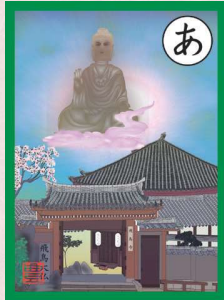
2021年（令和3）2月、『奈良万葉の旅百首』（京阪奈情報教育出版）を発刊しました。

当会10周年記念事業としての企画です。奈良県に関わる百首の万葉歌をリストアップして、60人が分担して書き上げました。「この本を携えて、たくさんの人に県内の万葉ゆかり地を訪ねてもらおう」がコンセプトです。



「奈良まほろばかるた」 <主なかるた文と絵札>

飛鳥寺
日本で一番古い寺



興福寺五重塔を映す
猿沢池



最古の歴史書
古事記の編者太安万侶



初代神武天皇祀る
橿原神宮



西瓜の種
奈良が生産日本一



世界最古の木造建築
法隆寺



高山は
茶釜の生産日本一



奈良の鹿
春日大社の神のお使い



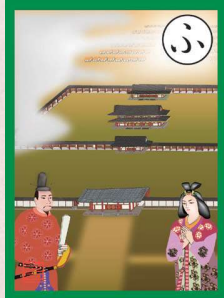
年号は
大化で始まる日本国



卑弥呼の墓といわれる
箸墓古墳



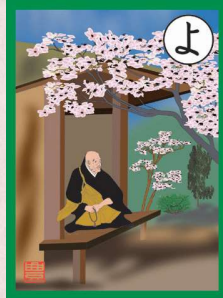
藤原京
日本初の本格都城



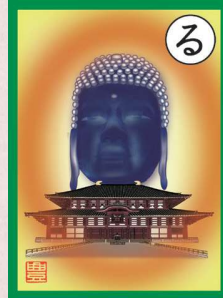
万葉集奈良生まれの
最古の歌集



吉野山
桜の名所と西行法師



盧舎那仏は
東大寺の大仏さん



ロマンある最古の古道
山の辺の道



「奈良まほろばかるた」は1年余りの制作過程を経て2018年1月に完成しました。

奈良の良さが広く理解され続けるためには、子どもたちが奈良の良さに気づき、理解することが一番だと考えました。次世代を担う子どもたちが親しみやすいように、奈良の良い所・良いものを絵と短文のかかるたにして普及することとしました。

奈良の地勢、歴史、神社仏閣、史跡、祭りなど奈良の誇りとなるものを取り上げました。日本最古、日本一、日本初なども強調して関心を引くことも心がけました。また、歴史の勉強の一助になればと、

読み札の裏には解説文をつけました。

かるたは各界、各地で好評をいただき、4刷まで増刷を重ねています。

かるた制作にあたり、奈良県からの補助金を受け、県内すべての子ども会に無償配布し、各地で活用されています。また、かるた会も各所で行いました。奈良ロータリークラブの子どもソムリエ、天理大学留学生と丹波市小学校生徒とのかるた国際交流などです。今後は、かるた大会を奈良県全域で開催し、奈良の良さをすべての子どもたちに伝えていくことを願っています。

企画!

JR万葉まほろばウォーク

「JR万葉まほろばウォーク」を2019年(令和元)12月7日(土)に開催しました。

奈良駅から巻向駅まではJR万葉まほろば線(桜井線)の貸し切り電車で向かいます。車中では柿の葉ずしをいただきながら米谷潔さんの万葉ミニ講話に耳を傾けました。巻向駅からはガイドグループが案内して、纏向遺跡の大型建物跡を見学した後、山の辺の道を経て大神神社まで歩きました。参加者数は当会では最多の126人(うち当会スタッフ32人)でした。



飛鳥コース
飛鳥坐神社にて



橿原コース
出発前の講話

リモート観光

三菱UFJ銀行が中心になり、2021年度にリモート観光を実施するに先立ち、2020年(令和2)12月5日(土)～6日(日)、奈良市内の社寺で行われた「実証実験」に、ガイドとして協力しました。首掛け式のカメラとマイクを装着し、関東などに住む三菱UFJグループの社員ご家族に、社寺を案内しました。



「ガイド養成セミナー」フィールドワーク

はじめに車中で万葉講座



橿原神社にて



歩く・見る・学ぶ! 『日本書紀』物語 2020

2020年は『日本書紀』編纂1300年の年でした。

飛鳥・橿原・桜井の3コースを設定し、冒頭約1時間は木村三彦顧問の講話。その後ガイドグループの案内で現地を歩きました。

各コースの参加者は、飛鳥54人(うちスタッフ14人)、橿原51人(同15人)、桜井47人(同14人)とコロナ禍のなか盛況でした。



奈良市内の寺院で

奈良SDGs学び旅

奈良商工会議所、奈良教育大学などによる「奈良新しい学び旅推進協議会」が中心となって取り組む「奈良SDGs学び旅」に協力しています。2020年12月18日(金)からスタートしたセミナーに会員希望者が参加するほか、2021年1月25日(月)からは、東大寺および奈良町におけるガイド活動がスタートしました。

学び

5周年記念の研修バスツアー

ソムリエの会結成5周年を前にして、会員アンケートを行いました。記念ツアーの行き先希望として、「湖北観音」、「継体天皇陵」、「近つ飛鳥」などが上位に入り、バスツアーを実施しました。

「湖北観音の里」は2016年（平成28）9月19日に実施しました。渡岸寺観音堂、西野薬師堂、赤後寺、石道寺などを見学、38人が参加しました。

「継体天皇ゆかりの地めぐり」は2017年（平成29）5月27日に実施しました。太田茶臼山古墳、今城塚古代歴史館、樟葉宮跡、筒城宮跡などを見学、木村三彦顧問が案内、41人が参加しました。

「近つ飛鳥と古市古墳群をめぐる」は2017年（平成29）12月3日に実施しました。観福寺（聖徳太子墓）、近つ飛鳥博物館、菅田八幡宮宝物館、応神天皇陵古墳、古室山古墳、津堂城山古墳などを見学、天野末喜奈良大学講師の解説を聞きました。参加者は30人でした。



古室山古墳
(大阪府藤井寺市)



浄土寺本堂前
(兵庫県小野市)

「浄土寺・石の宝殿・五色塚古墳」は2018年（平成30）12月8日に実施しました。浄土寺（兵庫県小野市）、生石神社・石の宝殿、五色塚古墳などを見学、木村三彦顧問の案内で、参加者は36人でした。



西野薬師堂（滋賀県長浜市）

菅谷塾

檀原考古学研究所所長・菅谷文則氏からご提案をいただき、2017年（平成29）4月～6月に氏を囲む勉強会を行いました。

第1回は「歴史と色」、第2回は「歴史と音」の講義を受け、講義後は氏を囲む懇親会で大きな示唆をいただきました。第3回は「奈良奉行所と寺社の宝物」をテーマに森下恵介檀考研共同研究員の講義を受けました。

菅谷文則氏は2019年（令和元）6月18日に逝去されました。お悔みを申し上げます。



歴史の奥義を楽しく語ってくださった菅谷文則氏

シリーズ講演会「なら記紀・万葉を味わい楽しむ」連続講演会

2015年（平成27）、広く市民に呼びかけ、あわせて深く学ぶ講演会の企画が課題となりました。鈴木浩副理事長（当時）、小野哲朗理事が担当して、「本物の古代と出会い、本物を楽しめる奈良」をテーマの10回シリーズの講演会を開始しました。著名人、若手気鋭の研究者なども含めて、古代史から記紀万葉まで幅を広げた講演会です。

演題に合わせて会場は県内各地を巡りました。講演会の開会前にはグループ活動として、ウォーキングなどを組み合わせる形で行いました。

4年間で10回の開催は、大きな努力が求められましたが、それに見合う成果がありました。

回数	開催日	講師および演題	開催場所	参加人数			午前の行事
				会員	一般	合計	
1	2015年（平成27） 2月8日	井上さやか（万葉文化館主任研究員） 「記紀万葉の愉しみ—はじまりの土地・飛鳥から」	県立 万葉文化館	109	166	275	ウォーク
2	2015年（平成27） 5月30日	稲畑ルミ子（奈良県立美術館学芸係長） 「絵画に表された記紀の物語」	奈良ロイヤル ホテル	134	49	183	ウォーク
3	2015年（平成27） 9月27日	奥村和美（奈良女子大学教授） 「桜井市の万葉歌碑」	桜井市立 図書館	88	86	174	ウォーク
4	2015年（平成27） 12月19日	橋本裕行 （橿原考古学研究所附属博物館 学芸課長） 「明治期の日本画に描かれた記紀」	かしはら 万葉ホール	85	37	122	ウォーク
5	2016年（平成28） 6月19日	馬場 基 （奈良文化財研究所主任研究員） 「万葉集から古代都城の変遷を探る」	奈良ロイヤル ホテル	151	39	190	総会
6	2016年（平成28） 10月30日	菅谷文則（橿原考古学研究所長） 「倭国の女王 卑弥呼」	やまと郡山城 ホール	111	180	291	ウォーク
7	2017年（平成29） 6月17日	来村多加史 （阪南大学国際観光学部教授） 「天平人が思い描いた 神武東征伝説の舞台」	奈良ロイヤル ホテル	139	39	178	総会
8	2017年（平成29） 10月8日	田辺征夫（奈良文化財研究所元所長） 「創建法隆寺は焼失したか」	天理市 文化センター	104	43	147	ウォーク
9	2018年（平成30） 6月17日	森下恵介 （奈良市埋蔵文化財調査センター前所長） 「大寺の成立と展開～飛鳥から平城へ」	奈良ロイヤル ホテル	175	20	195	総会
10	2018年（平成30） 11月3日	平林章仁（元龍谷大学文学部教授） 「古代葛城の神話・神社・寺院」	大和高田さざ んかホール	95	57	152	ウォーク
			合 計	1,191	716	1,907	

「ゆうドキッ！」出演（奈良テレビ放送）

2019年（令和元）9月30日から、奈良テレビ放送（9ch）の情報バラエティ番組「ゆうドキッ！」に、当会会員が交代でレギュラーコメンテーターとして出演しています。

当初は週2回でしたが、2021年（令和3）4月1日からは、週1回（木曜日）の出演となりました。

現在の出演陣は12人。3カ月に1回のサイクルで、奈良のグルメや観光スポットの情報を「ベスト3」形式で紹介しています。

放送時刻は午後5時半から6時半、当会のコーナーは冒頭の約11分です。ぜひご覧ください。



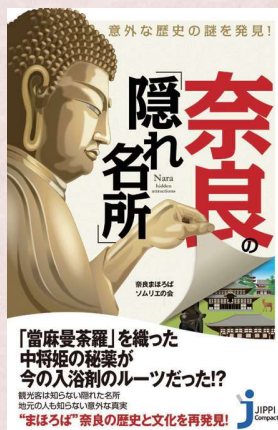
出演者にも知らされずスタジオに現れたさんまさん。会員もビックリ！（2019.11.7）

書籍紹介



『奈良 地理・地名・地図の謎』

奈良まほろばソムリエの会（監修）
じっぴコンパクト新書
定価762円＋税



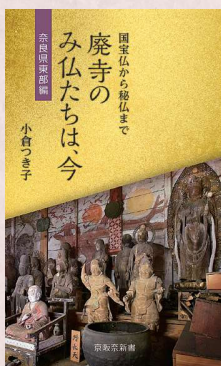
『奈良の「隠れ名所」』

奈良まほろばソムリエの会
じっぴコンパクト新書
定価900円＋税



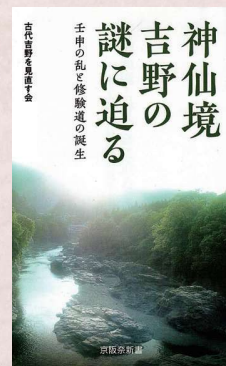
『奈良百寺巡礼』

奈良まほろばソムリエの会
京阪奈新書
定価980円＋税



『廃寺のみ仏たちは、今 奈良県東部編』

小倉つき子
京阪奈新書
定価950円＋税



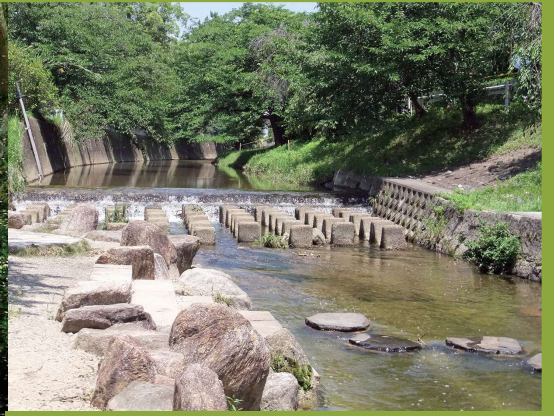
『神仙境吉野の謎に迫る 壬申の乱と修験道の誕生』

古代吉野を見直す会
京阪奈新書
定価900円＋税



『奈良万葉の旅百首』

奈良まほろばソムリエの会
京阪奈情報教育出版
定価1,000円＋税



奈良まほろばソムリエの会
10年のあゆみ



2011〔平成23年〕

- 2月5日 ソムリエ合格者の集い 来村多加史氏から「ソムリエ工士の連携を」との提案。発起人11人が集まり、会の設立準備に入る。
- 6月11日 奈良まほろぼソムリエ友の会、発足の集い（総会）



「友の会」発足記者会見

- 7月 それぞれの部会の初会合。リーダー、サブリーダーを決めて活動方針を決定。第一歩を踏み出した。

10月29日
交流部会（杜寺探訪サークル）
円成寺と滝坂の道を訪ねて



- 11月18日 会報紙「ソムリエの風」創刊号

創刊号
2011年11月18日

ソムリエの風
奈良まほろぼソムリエ友の会の会報

友の会発足

ご挨拶

奈良まほろぼソムリエ友の会
代表理事 後藤 隆

発起記者会見

会報紙「ソムリエの風」創刊号

2012〔平成24年〕



2月18日
講演会・交流会に出席した
女性会員たち

5月17日
交流部会（奈良再発見サークル）
女たちの守る寺
「多武峰街道に隠れ古寺を訪ね、
丁石道を歩く」（聖林寺）



- 7月16日 総会にて「特定非営利活動法人への移行」を可決。講演は春日大社権宮司（当時）岡本彰夫氏「奈良の食～その誇りの系譜～」
- 10月6日 産経新聞「なら再発見」連載開始（2015年3月28日まで 全115回）
- 11月18日 NPO法人設立総会にて特定非営利活動法人「奈良まほろぼソムリエの会」設立を決議
- 11月30日 奈良県にNPO法人設立申請を提出



サポート部会
一言主神社参道での
コース実習風景

サポート部会
公民館活動の研修風景



2013〔平成25年〕

2月1日 奈良県知事からNPO法人の認証を取得
 5月5日 発足祝賀会 (奈良ロイヤルホテル)



NPO法人発足祝賀会
 「小北理事長挨拶」

NPO法人発足祝賀会「来賓の方々」

12月21日
 納会「舞楽『蘭陵王』」



活発な活動が繰り広げられた



奈良交通とのタイアップ企画
 「奈良まほろばソムリエと行く
 バスツアー」

歴史探訪グループ
 (「紀万葉サークル」
 「葛城の道」)



歴史探訪グループ
 (「紀万葉サークル」
 「櫻木神社」)

2014〔平成26年〕

2月15日
 歴史探訪グループ
 (「史跡探訪サークル」
 「安堵町民俗資料館と
 中家住宅」)



3月10日
 実業之日本社から
 『奈良「地理・地名・地図」の謎』
 刊行。当会は監修を担当



5月24日
 総会。水野正好氏 (奈良大
 学名誉教授) の講演「聖武天
 皇・光明皇后〜ご夫婦の温
 かい愛と陰陽宝剣」

8月3日
 奈良のうまいものを極める会
 「奈良のうまいもの
 プラザでの食事会」



奈良まほろばソムリエ検定
 2級認定支援セミナー

12月15日
 天理市制60周年記念
 バスツアー最終回に
 内山永久寺跡を案内



2015〔平成27年〕

2016〔平成28年〕



2月8日
「なら紀万葉を味わい楽しむ」
シリーズ講演会第1回
井上さやか氏
(県立万葉文化館主任研究員〔当時〕)
「紀万葉の愉しみ
—はじまりの土地・飛鳥から—」

5月31日
奈良まほろば
ソムリエ検定
体験学習プログラム
「安倍文殊院と
磐余の道を行く」
道崎美幸さん



6月15日
女性グループ
丹生川上神社上社

6月21日
歴史探訪グループ
(史跡探訪サークル)
ちよつといい旅田原本
「田原本・浄照寺」



7月30日付
(毎日新聞奈良版)
保存継承グループ
市町村指定
有形文化財調査

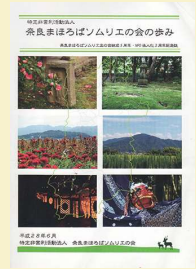
11月13日
奈良テレビ放送
「ゆっトキッ」
旭堂南青さん(当時)が
検定2級に挑戦



1月11日
第1回
Nara 観光
コンシェルジュアワード
最優秀賞 友松洋之子さん



6月7日
ソムリエの会の歩み
5周年記念誌発行記者会見



6月19日 総会・講演会・5周年記念祝賀会



通常総会(奈良ロイヤルホテル)(左)。
紀万葉シリーズ講演会 第5回。馬場基氏(奈良文化財研究所主任研究員)。「万葉集から古代都城の変遷を探る」(右)
理事長は小北博孝さんから鈴木浩さんに交代

7月27日 実業之日本社から『奈良の「隠れ名所」』を刊行



9月19日 5周年記念バスツアー1回目 湖北観音の里巡拝
参加者は38人、地元ガイドが案内

10月30日
紀万葉シリーズ
講演会第6回
菅谷文則氏
(檀原考古学研究所所長)
「倭国の女王卑弥呼」
(やまと郡山城ホール)



2017年 毎日新聞「ディスカバー！奈良」
1月12日 連載スタート(2019年3月28日付〔全108回〕まで)

2017〔平成29年〕

1月25日
「地域再生大賞」受賞お礼
奈良新聞社で甘利氏と



2月4日
第2回
Nara観光
コンシェルジュアワード
最優秀賞
安井永さん

6月17日
総会
記紀万葉シリーズ講演会第7回
来村多加史氏
(阪南大学国際観光学部教授)
「天平人が思い描いた
神武東征伝説の舞台」
(奈良ロイヤルホテル)



10月8日
記紀万葉シリーズ
講演会第8回
田辺征夫氏
(奈良文化財研究所元所長)
「創建法隆寺は焼失したか」

5月27日 5周年記念バスツアー2回目 継体天皇ゆかりの地めぐり。木村三彦顧問が案内



12月3日 5周年記念バスツアー3回目 近つ飛鳥と古市古墳群をめぐる。天野末喜氏(奈良大学講師)が案内



2018〔平成30年〕

1月17日 「奈良まほろばかるた」完成



奈良まほろばかるた制作発表記者会見



2月12日
新春交歓会
かるた大会



2月17日 第3回Nara観光コンシェルジュアワード
最優秀賞 露木基勝さん



理事会で挨拶する
豊田新理事長

6月17日 総会
理事長は鈴木浩さんから豊田敏雄さんへ

6月17日
記紀万葉シリーズ
講演会第9回
森下恵介氏
(奈良市埋蔵文化財
調査センター前所長)
「大寺の成立と展開
～飛鳥から平城へ」



8月9日
元興寺で子どもたち
とかるた大会



11月3日
記紀万葉シリーズ講演会第10回(最終回)
平林章仁氏(元龍谷大学文学部教授)
「古代葛城の神話・神社・寺院」

12月8日
5周年記念バスツアー
4回目
浄土寺・石の宝殿・
五色塚古墳
木村三彦顧問が案内



2019〔平成31年/令和元年〕

2020〔令和2年〕

- 2月16日 第4回Nara観光コンシェルジュアワード
最優秀賞 八尾鈴子さん
- 2月28日 京阪奈情報教育出版から『奈良百寺巡礼』刊行
- 6月16日 総会(奈良ロイヤルホテル)
映像作家・保山耕一氏の「トーク&上映会」



奈良公園バスターミナルのレクチャーホールにて保山耕一氏の作品上映会「奈良、時の雫」に出演・協力

- 7月 生蓮寺
松森重博さん
- 8月 安倍文殊院
雑賀耕三郎さん
- 9月 聖林寺
道崎美幸さん
- 10月 正暦寺
豊田敏雄さん
鉄田憲男さん
- 11月 般若寺
石田一雄さん
- 12月 長岳寺
久門たつおさん



保山耕一氏「奈良、時の雫」
生蓮寺のハス和尚と松森さん



6月9日 万葉講座の説明会



10月13日
講談師の旭堂南龍さんによる「大仏再建の立役者・公慶上人」の講談を聴いた後、公慶上人ゆかりの東大寺周辺を巡る



奈良テレビ「ゆうドキッ！」
レギュラー出演陣
(当会の担当者5人と
出演者)



12月7日
万葉まほろば線専用
臨時列車による
山の辺の道
JR万葉まほろばウォーク

米谷潔さんによる専用列車
車内での万葉集ミニ講話



- 2月9日
新春交歓会
(奈良商工会議所)
保存継承グループ
の発表「災害対策
調査の報告」



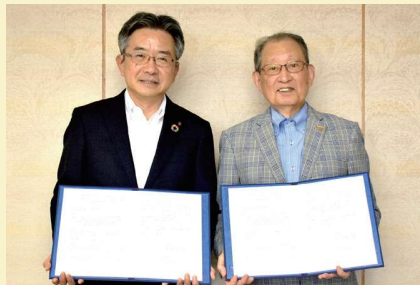
2月
保山耕一氏の作品上映会
王龍寺、小野哲朗さん

総会は最少人数で開催

- 6月21日
総会はコロナ禍のため、
書面総会となった



◀ 藤井哲子さんのコロナ退散
アマビエのイラスト



7月21日
南都銀行と連携
協定を締結

- 11月25～26日 プレ10周年記念「十津川村バスツアー」

大和八木駅に17人が集まり大型バスで五條、天誅組本陣跡、谷瀬の吊り橋、十津川歴史民俗資料館を見学。昂の郷で掛け流しの温泉と郷土料理を楽しんだ。



2日目は小型バスで果無集落をたずね、玉置神社にお参り。

郷土史家の杉井辰彦氏の解説つきで十津川を深く味わった



2021〔令和3年〕

1月25日 奈良SDGs学び旅（本番）で、明日香村職員を対象に東大寺・奈良町を案内（2月9日には吉野町職員を対象に同コースを案内）



猿沢池周辺をガイド

2月14日 研究発表会（第1部）『神仙境吉野の謎に迫る』（京阪奈新書）の刊行と古代吉野を見直す会（第2部）修験道以前の吉野と山の信仰



松田度氏（大淀町学芸員）の講演（第2部）

2月28日 京阪奈情報教育出版から『奈良万葉の旅百首』を発売。（報道発表は3月1日）



ご尽力いただいた本書編集委員
向かって左から豊田敏雄さん、
福井洋さん、雑賀耕三郎さん、
鉄田憲男さん、石田一雄さん

3月10日 奈良新聞社に『奈良万葉の旅百首』を献本。10冊の読者プレゼントに応募は50通以上



中央は、奈良新聞社代表取締役社長
田中篤則氏

4月11日・18日 奈良ロータリークラブ主催「山の辺の道 親子ウォークラリー」に当会会員7人がガイドおよび講師として協力。参加者は両日とも約30組（約60人）、同クラブのスタッフが25人という大イベントとなった



崇神天皇陵
（4月11日）

柿本人麻呂歌碑（4月18日）



祝！ 当会設立10周年

4月24日 コロナ禍で10周年・出版記念会は延期となったが、春日大社でご祈祷（神恩感謝）を受け、無事10周年を迎えられたことを奉告（写真は御祈祷所）



啓発グループ



講師は吉川和美さん



講師養成講座で松永佳緒莉さん



グループミーティング（信貴山・蓬之里）



酒蔵見学（大和郡山市中谷酒造）

1. 啓発グループとは

啓発グループは、NPO法人の発足と同時に誕生したグループです。愛称「奈良文化発信隊」として、奈良の歴史・文化・観光に関する「調査・研究」、啓発活動として「自主勉強会」、「セミナー・講演会」や「奈良まほろばソムリエ検定」の受験者への支援活動を行ってきました。その他、講師養成の活動、「奈良まほろばかるた」の制作や普及に努めてきました。

●自主勉強会

会員が「アウトプット」するための更なる知識向上のため、テーマを決め、講師をお呼びして、自主的な勉強会を開催。木村三彦顧問や明日香村文化財課の方々、井上さやかさんら万葉文化館の研究員の方々にもお越しいただきました。

●講師養成講座

研究発表を進めるために「講師養成講座」「研究発表練習会」「パソコン講座」等を開催してきました。

●奈良のうまいものを極める会

「奈良はうまいものばかり」を合言葉にして大和野菜、大和肉鶏、奈良の地酒をはじめ郷土食、郷土料理などの調査・研究（試食・試飲？）活動を行っています。

●酒蔵見学

年1回冬期の日本酒の仕込み時期に、奈良の数ある酒蔵から1つ選び、見学させていただいています。

●奈良検定支援活動

奈良商工会議所と連携し、1級受験の要件である「体験学習プログラム」を実施。旅行会社主催の研修会にも講師を派遣してきました。

2. 「奈良まほろばかるた」への取り組み

2015年から2018年にかけて、会員の米谷潔さんの発案で、奈良の子供たちに奈良の歴史・文化に親しみ、日本一、日本初などを知ってもらうために「奈良まほろばかるた」を制作しました。

制作費の一部は奈良県地域貢献サポート基金の補助を受け、絵札については絵本画家のなかじまゆたか（中島豊＝橿原市在住）さんの協力を受けることができました。

「奈良まほろばかるた」の名称は特許庁で登録商標として認められました。今後も、県内の小学生にこのかるたで楽しんでもらい、将来かるたを使って全県内で小学生かるた大会を開催したいです。

2021年4月から、毎日新聞で「かるたで知るなら」の連載が始まりました。

3. 啓発グループの目指すところ

当初、「奈良文化発信隊」としてスタートしましたが、活動はまだまだ十分ではないと思います。今後も精一杯取り組みたいです。

2021年1月の奈良まほろばソムリエ検定の試験が中止となり、活動の幅がなくなった感じではありますが、これからも頑張りたいです。啓発グループは何でもできるグループですから。

(大山恵功)



安倍文殊院（体験学習プログラム）



「奈良まほろばかるた」記者発表
(2018年1月17日)



天理大学の留学生と丹波市小学校の児童との
かるた交流



「ならまち遊歩」でかるた会

保存継承グループ

活動の概要を箇条書きで紹介します。

◆文化財調査

- (1) 市町村指定の建造物（登録文化財を含む）＝調査期間：2013年12月～2014年8月▽実施：110件▽調査結果：調査票をCD-ROMで保存＝(2)(3)も同じ
- (2) 市町村指定の史跡・名勝・天然記念物・有形民俗文化財＝2015年7月～2016年5月▽99件▽「ソムリエの風」20号に掲載。2016年6月、県庁内で報道発表（2紙に掲載）。同年11月、年末交歓会で会員向けに発表。
- (3) 県指定の建造物・彫刻＝2017年7月～2019年4月▽149件▽「ソムリエの風」28号に掲載。会HPの「活動報告」にアップ。2019年6月、県庁内で報道発表（5紙に掲載）、県地域振興部へ文化財保存の要望書提出（① 県指定建造物の耐震診断② 過疎地域の仏像等の保存・展示施設設置③ 消防機関への通報直結の推進と住民参加の文化財防火デー行事など4項目）。2020年2月、新春交歓会で会員向けに発表。



県指定建造物の旧吉川家住宅を調査
(大和郡山市の大和民俗公園で2018年8月)



シロアリのため柱が腐食した県指定建造物の平尾水分神社本殿
(宇陀市で2018年5月)



県指定建造物・彫刻の災害対策調査結果を報じる新聞記事
(2019年6月～8月、掲載順に左から奈良、朝日、毎日、産経、読売各紙)

◆祭礼見学 ※見学記は当会HPの「つれづれ日記」にアップ

- [2016年] 新薬師寺おたいまつ(奈良市)、ほうらんや火祭り(橿原市)、龍田大社渡御祭(三郷町)、亥ノ子暴れまつり(桜井市) など5件
- [2017年] 稲渕・栢森綱掛神事(明日香村)、大峯山寺戸開式(天川村)、龍田大社風鎮大祭(三郷町)、東安堵の六齋念仏(安堵町) など11件
- [2018年] 大神神社繞道祭(桜井市)、石上神宮でんでん祭(天理市)、奥田の蓮取り行事と金峯山寺蛙飛び行事(大和高田市・吉野町) など11件
- [2019年] 法隆寺西円堂追儼式(斑鳩町)、春日大社春日祭(奈良市)、飛鳥寺花会式(明日香村)、十津川の大踊り(十津川村)、石上神宮神庫祭(天理市) など11件
- [2020年] 笠山荒神社初荒神(桜井市)、六県神社子出来オンダ(川西町) 2件

春以降、コロナ禍のため祭礼の縮小・中止が多く、見学見送りが続く。

◆社寺美化奉仕

県「健やかなら支援財団」主催の「まほろばシニアリーダーカレッジ」の卒業後、名前を2009年「まほろば会」として活動開始。2014年より同会とソムリエの会が共同開催。2020年春「まほろば会」が解散し、同年秋から保存継承グループが事業継続。[2014年] 浄瑠璃寺、秋篠寺、白毫寺、般若寺(参加者計99人)[2015年] 王龍禅寺、般若寺(59人)[2016年] 弘仁寺、秋篠寺、中家住宅(76人)[2017年] 聖林寺、秋篠寺(39人)[2018年] 般若寺(22人)[2019年] 聖林寺、帯解寺(28人)[2020年] 長岳寺(12人)

◆その他の活動

※5周年記念誌で詳しく掲載されているため、その後の動きのみ記載

▷丹生川上神社中社(東吉野村)の御神像の県指定バックアップ

[2014年] 文化財調査で訪問。日下康寛宮司より社殿改修のため村指定から県指定に格上げしたい、と協力要請を受ける。[2015年] 県文化財保護指導員の平田康道氏、大淀町教委学芸員の松田度氏と丹生川上神社中社訪問。収蔵している御神像の中には国の重要文化財級もあることが判明。申請書類を村経由で提出。[2018年] 御神像20点の県指定決定。[2019年] 県は英国・大英博物館で開催の「奈良―日本の信仰と美のはじまり」展に国宝5点を含む全19点出展。内2点は丹生川上神社中社の御神像だった。

▷安堵町の県指定無形民俗文化財「東安堵の六斎念仏」のリズム(調子)復活

[2016年] 発表会を拝聴しリズムの変調に気づき、代表の胡内正之氏に確認したところ、昔と比べ今はリズムが変わっているとのこと。音楽家の入江知子さんに、指定当時のテープを持ち込み相談。[2017年] 入江知子さん作成の楽譜が完成、安堵町文化ホールで音合わせ。講員全員協議で1991年県指定時のリズムに戻す決定。[2018年] 第2回音合わせを胡内正之氏宅で実施。8月14日、大宝寺で元のリズムにより9曲奉納。

(久門たつお・鈴木英一)



新春交歓会で災害対策調査結果を発表(2020年2月)



地区で祭りの継承に努める県指定無形民俗文化財の「吐山の太鼓踊り」(奈良市都祁で2018年11月)



社寺美化奉仕で秋篠寺金堂跡の雑草などを取る(奈良市で2016年7月)



大英博物館で展示された丹生川上神社中社の県指定文化財、罔象女神坐像(2019年11月)

講演・講座グループ



来村教授による第7回シリーズ講演会



「奈良をもっと楽しむ講座」の講演風景



講座風景



講演・講座グループのメンバー

奈良市内の公民館を会場とした「奈良の歴史講座」は既に10年を超えました。今では3か所で3つの講座を継続開催しています。

毎月第2・第4土曜日に奈良市中部公民館で開催する「検定受験講座」はほぼ1年計画の講座で、前半は過去問題の解説から始め、後半は予想問題などパワーポイントを駆使して多くの情報を盛り込んでいます。また筆記問題の出題候補地のウォーキングなど、受講生との繋がりを大切にしています。

毎回40～50人ほどが受講され、講師を順に担当する私たちも“歴史漫談”や自らの体験をはさんだり、和やかな雰囲気づくりを工夫したりもしています。ソムリエの新入会員には、同講座の受講生が数多く含まれています。

コロナの感染防止のために2021年の奈良検定試験が中止になったことに伴い、検定受験講座も休止していますが、受験予定の方の意欲をつなごうと2020年10月・11月に「特別講座」を開催し、来年への思いを関係者で共有しました。

また会のホームページに「奈良検定受験講座」欄を新設し、適宜情報提供できるようにしています。今では奈良検定ファンを広げ、受験対策の大きな柱になっています。

「奈良をもっと楽しむ講座」と題して、2013年から奈良市若草公民館で、奈良に関する少し深いテーマの講座を開催しています。会員の講師が勉強の成果を披露する場として、奈良の歴史や自然をテーマに画像等も楽しんでいただける充実した90分の講座です。なお、駐車場の不便さもあって今は中部公民館に場所を移し、毎月第2金曜日に開催しています。

学園前の奈良市西部公民館では毎月第4水曜日にもう1つの「奈良をもっと楽しむ講座」を開催していま

す。毎回2人の講師担当者が「奈良を歩く」紙上ウォークなど、自分の関心事をテーマに選んで話しています。ご近所にお住まいの方など毎回ファンの方が集まり、和気あいあいとしたムードで進められます。

各講座は講座グループ員が募集から受付、運営の全てを分担しアウトプットに努めています。

コロナ禍で参加人数制限が必要となり、自動予約受付システムも採用して、名簿作成も効率よくできるようになりました。今後できるだけ効率運営を進めて講座内容の充実を図りたいと思います。

検定受験者、奈良をもっと楽しみたい人など市民の間に定着し、奈良市からは地域振興の模範活動団体登録の栄誉を受けています。

これら公民館講座を当初の立上げから育成にかかわり、今日の講座グループを築いてこられ、今は故人となった井上哲夫さん、深尾正さんら先輩の努力も大きかったと思います。

講座グループの会員だけの月1回、土曜日の昼下がり集う「若草サロン（茶論）」も気のおけない仲間の座談で盛り上がっています。

また2015年から始めた「記紀万葉シリーズ講演会」は、4年にわたり県内の各地を巡回する形で、計10回開催しました。

午前中は「ソムリエ大会」としてガイドツアーなどグループごとに活動し、午後は著名な先生方を招いての記紀万葉に関する講演を聞くという新機軸の複合的な講演会方式で開催しました。

会員と一般市民の方々が一緒に楽しみ、県など多方面からこの地域貢献活動に対し高い評価を得ました。

（鈴木浩・前田康一・西川誠・福井洋・小野哲朗）



ソムリエ級特別講座「400字対策ウォーキング」



中部公民館の受験講座運営メンバー



第10回シリーズ講演会 平林章仁氏の講演



「奈良をもっと楽しむ講座」の講演風景

歴史探訪グループ

探訪の視点

歴史探訪グループ（歴探）の歩みを振り返ってみます。神社仏閣をお参りすると、拝観券に縁起がつづられています。歴探のガイドも同程度のものでした。しかも、ソムリエのテキストに書かれている神社仏閣は日本史のなかでも超一流のものばかり、仏堂に坐しますさまは見ているだけで心が和むのでそれだけ充分なものでしたが、歴史を少し深く探って訪ねてみると次のような新たな視点が浮かんできました。



海神社縁起石碑



善女竜王銘の石灯籠銘



辛国神社

1. 海のない奈良に「海神社」とは？

『日本の神々』大和編を読み、「海のない奈良に海神社があるのはなぜ？」との文章に出会いました。

奈良の海といえば、東大寺のお水取りに若狭の鶴の瀬からお水送りが行われています。若狭は「海のある奈良」と言われます。もし奈良で海の祭神となれば「遠敷明神」でしょう。

しかし、この海神社の祭神は善女竜王で室生の竜神とされますが、疫病を防ぐ牛頭天王とも習合しています。明治の神仏分離政策で、万世一系の天皇制のもとで記紀以外の神が否定され、海神（ワタツミ）と習合して海神社とされました。

2. 神社に祀られている祭神は

神話の世界からの時代史を表している

つい先日歴探の例会で、藤井寺の辛国神社をめぐるしました。第一神は饒速日尊（ニギハヤヒ）第二神は天児屋根命（アメノコヤネ）、第三神素戔嗚尊（スサノオ）第四神が品陀別命（ホムタワケ）第五神が市杵嶋姫命（イチキシマヒメ）となっています。

饒速日尊は古事記の天孫降臨神話でニギよりも早くに天から降ってきたのでニギハヤと名が付けられ、物部氏の祖神とされています。ニギノミコトからの神武が大和を征服する以前に、物部氏がこの地域を支配していたことを、記紀も無視できなかったのでしょう。

アメノコヤネは律令制の時代から平安にかけて、藤原氏の政治権力が強大だったことの現れでしょう。スサノオは明治時代の習合で、もとは牛頭天王です。織田信長は牛頭天王を信奉していましたので、焼き討ちに合わないために牛頭天王を祭神に迎えました。ホムタワケとイチキシマヒメは子供の安寧と子孫繁栄につながる現代の信仰と思われれます。面白いのは、天皇家のアマテラスが祀られていないことです。



辛国神社縁起

3. 菅原道真公は天神社と天満宮の 2社の祭神なのはなぜ？

右大臣であった菅原道真さんは太宰府へ左遷され、間もなく没しました。その20年ほど後に平安京の紫宸殿に雷が落ち会議中の公卿たちが命を落としています。道真公の怨霊による落雷の祟りとされます。2ヵ月後に道真を太宰府に左遷した醍醐天皇が亡くなります。天皇の死が道真の怨霊のピークとなり、京都北野に怨霊封じの天満宮が創建されました。

京都北野には天満宮が造られる前に、雨を降らす豊穰の神として雷の神の電公でんこうが祀られていました。紫宸殿に落雷が落ちたことで、菅原道真公が怨霊となって電公を使って公家に復讐し、その結果天皇も呪い殺られたとされ、この社が天魔の社と噂され「天魔宮」と呼ばれたようです。この天魔をコントロールしているのが菅原道真公とされました。怨霊を封じるために道真公を正一位に任じ天神として崇めるようになりました。



道明寺天満宮

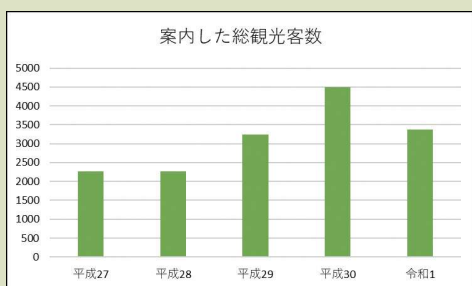
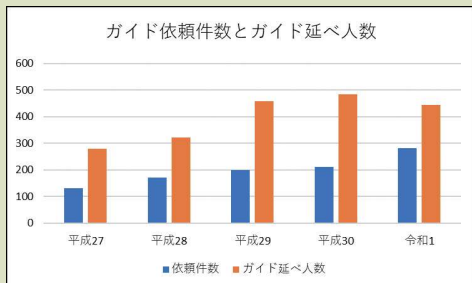
北野天満宮を創建するにあたって、天魔から魔を満に変えて天満宮とされました。もとは天神さんが菅原道真公で、雷さまが天満宮なのですが、特に近代になって道真公の学識を貴ぶ信仰がつよくなり、天神社と天満宮が同一祭神になってきたと考えられます。

(加藤宣男)

北野天神社絵巻 (絵葉書からの転載)



ガイドグループ



カラフルなチラシで募集



桜満開の道をゆっくりガイド

ガイドグループとは

ガイドグループは、奈良の良さ・素晴らしさをガイドを通して広く伝え、奈良の文化・観光の振興に貢献する活動をしています。

ガイドグループ所属の会員は約60人。奈良県を4つのエリアに分け、グループ員はその1つに所属し、主な活動・研鑽の場としています。さらに希望すればほかのエリアの活動もできるような仕組みも設けています。

また、活動の内容は大きく分けて3つです。

一般ガイド：件数は少ないものの、奈良を訪れる個人旅行者やサークル等を対象に、ソムリエならではのガイドを提供して根強い人気がある。

募集ガイド：春期と秋期にそれぞれ8～10コース程度をガイドグループが企画し、各回30人程度を募集して、多彩なコースを幅広く沢山の方々に楽しんでいただいている。

受託ガイド：奈良シニア大学、NHK文化センター、観光協会、王寺町歴史教室、歴史街道、いろいろな旅行者・バス会社などの企画旅行のガイド・講座を受託している。繰り返し定期的なスケジュールが確立しているものもあり、件数・案内客数では、この受託ガイドが群を抜いて多い。

ガイドグループのこれまで

ガイドグループの最近5年間の活動は大きな伸びを示しています。ガイド依頼件数は2015年度の132件から2019年度の282件へ倍増以上伸び、ガイド延べ人数も280人から平成30年度は483人と活動量が増加しています。案内した総観光客数は2015年度2,259人、2018年度には4,503人と大幅な伸びを示しました。

2019年度は年度末のコロナ禍の影響で2月後半ご

ろから活動の停止を余儀なくされたため、ガイド延べ人数、案内した観光客数とも伸び悩みましたが、依頼件数から推定すると2018年度を上回っていたと思われます。コロナ禍によりガイド活動は2020年3月ごろから8月まで全面的に休止を余儀なくされましたが、9月の再開からは順調に実績を伸ばしています。またガイドに当たっては、都度下見・下調べを行うことを原則とし、コロナ禍への対応策をはじめ、荒天や非常時などへの対応も万全を期しています。

特徴的な取り組みとしては、古事記・日本書紀の1300年プロジェクト関連で、10回の講演会とコラボしたガイドツアーを開催し、さらにプロジェクト最終年度の企画として2020年には『日本書紀』に関するツアーを3回開催しました。また、万葉集プロジェクトではJRともコラボし、1回のツアーとしては最多の126人ものツアーを開催しました。

講談で巡る奈良、興福寺・奈良町の古地図ツアーや、「ならまち遊歩」のナイトツアーなどユニークな企画にも取り組み、好評を博しています。

ガイドグループのめざすところ

ガイドグループは、今後とも次の3点を目標に活動してまいります。

- ①顧客満足第一：プロフェッショナル意識を持って、顧客ニーズに応える
- ②ソムリエならではのガイド：
単なる紹介に終わらず、顧客の興味を深め、心に残るガイドを目指す
- ③ガイド技術・内容の向上：
個人の努力と、グループとして知識・経験の共有

さらなる課題としては、個々人の能力アップによるガイドの質の向上、ソムリエによるガイドの知名度の向上、メンバーへの多くのガイド機会の提供などが挙げられ、今後とも活動に邁進していきます。

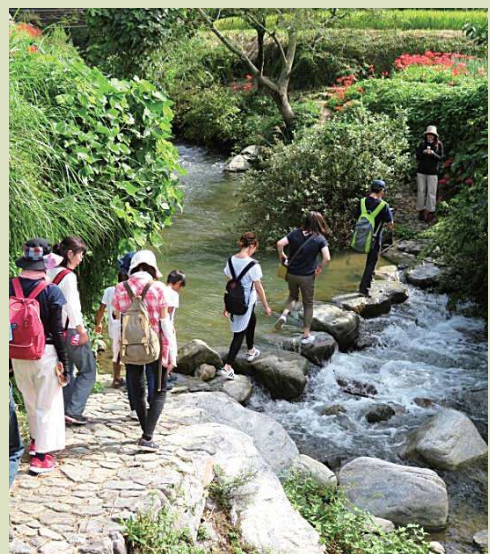
(三宅努)



町並みの由来も勉強



見晴らし最高！



飛び石を順番に、気を付けて！



これが古代の礎石

女性グループ (ソムリエヌ)

2014年、女性有志28人で活動を開始。気軽に交流できるよう、親しみやすく愛称を「ソムリエヌ」としました。毎月会員が自主的にアイデアを出し合い、史跡散策にプラスαのグルメランチなど、女性の感性を活かした活動で親睦を深めています。

現在メンバーは40人。また、女性グループ独自の活動として小学生を持つ家族を対象に、夏休みや春休みを利用して「家族体験教室」を実施。ほんものの文化財に触れる体験型で、若い世代に奈良の魅力を発信しています。奈良の歴史を「楽しく・わかりやすく」知ってもらうため、手作りの紙芝居やクイズで楽しめる工夫をしました。また、啓発グループとともに、「奈良まほろばかるた大会」に協力・参加しました。

「子ども支援活動」

2017年7月30日/8月19日

土器接合体験（歴史に憩う橿原市博物館）

2018年8月5日

古代の瓦作り（同）

2018年8月9日

元興寺でオニに会おう！

2019年3月27日

集まれ！ちびっこ探検in東大寺・五劫院

2019年8月4日

土器接合と古代瓦のカラー拓本
（歴史に憩う橿原市博物館）

2019年8月17日/18日

ならまち遊歩、奈良まほろばかるた大会
（奈良町にぎわいの家）

「奈良まほろばかるた大会」

2018年3月27日

イオンモール大和郡山

2018年12月7日

国際交流かるた大会（天理市立丹波市小学校）

2019年2月24日

こども奈良ソムリエ育成プロジェクト（奈良大学）

2019年3月25日

イオンモール大和郡山

2019年12月6日

国際交流かるた大会（天理市立丹波市小学校）

（道崎美幸）



万葉歌碑拓本体験（井寺池周辺）



大和ハーブ演奏会



春休み子ども支援活動（五劫院）



草木染め体験

ふれあい交流会

ふれあい交流会は、独立した「グループ」ではありません。奈良まほろばソムリエの会の会員同士の気楽な親睦・交流の場です。

あえて交流会への入部を表明されなくても、当会の全員にメールで情報をお知らせします。

ねらいは、

- ①フルタイムで働いている方や遠隔地の方に
- ②入るグループを決めるまでの「つなぎ」に
- ③所属グループ以外の会員との交流を希望する方に

ふれあい交流会は2016年（平成28）3月、当会の全会員向けに実施したアンケート結果を受けて設置しました。

アンケートによると、グループに入っていない人は全会員の約3分の1もいて、入らない理由はダントツで「忙しくて参加できそうにないから」となっています。現役で仕事を持っている人や、県外に住んでいる人は、なかなか時間的な余裕がないようです。そこで「ゆるい交流会をやろう」と思いついたのです。

当会の全員にメールでお知らせし、ご都合のつく時にだけ出ただけです。これまで2017年（平成29）3月、9月、2019年（令和元）7月に3回のミニ講演会を開催しました。

2020年からはまた新企画を考えました。毎月1回「肩のこらない講話と飲食の場を設けよう」という企画で、「サロン・ド・ソムリエ」と名付けました。

2020年3月からスタートする予定で日程も組んでいましたが、コロナ禍で宙に浮いてしまいました。コロナ後にはぜひ実現させたいと思います、楽しみに！

（鉄田憲男）



第1回 2017年3月18日
「纏向遺跡における調査・研究への取り組みとその成果」
講師は桜井市文化財課課長・橋本輝彦氏



第2回 2017年9月3日
「大和のモノの世界」
講師は奈良民俗文化研究所代表・鹿谷勲氏



第3回 2019年7月15日
「糞虫の聖地！奈良公園の魅力」
講師はならまち糞虫館代表・中村圭一氏

関東サークル (関東グループ)

2011年7月24日に当時の広報部会長の声掛けで日本橋のまほろば館に集まって以来、「奈良と関東の繋がりを探訪する」をテーマに武蔵国はじめ関東各地の国府・国分寺や各地に残る古墳などを巡っています。毎年、ソムリエの会に入会した関東在住の方々を迎え、メンバーも少しずつ増えて現在31人になっています。



群馬綿貫観音山古墳

コロナの影響で2020年4月以降、メンバーの交流ができていませんが、2019年は3か所を巡り、2020年2月には3回目となる鎌倉ツアーを実施しました。

2019年6月16日には群馬の古墳巡りを行いました。JR倉賀野駅近くにある倉賀野古墳群と安楽寺を見学、安楽寺は本尊が古墳石室という珍しいお寺です。裏に回ってみると、なるほど、本堂が古墳に突き刺さるように取り付いています。



鎌倉正統院本堂前

高崎市綿貫町の綿貫観音寺古墳と群馬歴史博物館も見学しました。全長97mの墳丘はきれいに整えられ、四角に切り揃えられた小さな石材が積み重ねられたきれいな石室は、立ったまま中に入れ、現地ガイドもいるという充実ぶりで、さすが関東の古墳王国群馬といわれるだけのことはあります。

2020年2月2日の鎌倉ウォーキングでは、鎌倉検定1級の2人を先導役に、北鎌倉駅から鎌倉駅まで、鎌倉の歴史を伝える寺と寺跡を歩きました。

関東サークルはコロナ対策をしつつ、活動再開できる時期を待っているところです。

(原英男)

歴 代 役 員

	2011年(H23)年6月 奈良まほろば ソムリエ友の会 発足	2012(H24)年7月 奈良まほろば ソムリエ友の会 総会	2012(H24)年11月 NPO法人 設立総会	2014(H26)年5月 奈良まほろば ソムリエの会 総会	2016(H28)年6月 奈良まほろば ソムリエの会 総会	2018(H30)年6月 奈良まほろば ソムリエの会 総会	2020(R1)年 奈良まほろば ソムリエの会 総会
小北博孝	会長		理事長		顧問		
北田良嗣	副会長		副理事長				
鉄田憲男	事務局長		専務理事				
植木正二	書記						
長岡光彦	書記			理事	副理事長		
鈴木 浩	会計		理事	副理事長	理事長	顧問	
木村洋子	会計		理事				
井上哲夫	監査						
東條 満	幹事						
大槻旭彦	幹事						
深尾 正	幹事		理事				
亀田幸英	書記		理事		事務局長		
大山恵功	書記		理事				
小林俊夫	幹事		理事				
鈴木英一			理事				
豊田敏雄			理事		副理事長	理事長	
安井 永			理事				
露木基勝			監事				
大嶋 與			監事				
小野哲朗			理事			副理事長	
岸 克行			理事				
瀬川郁淑			理事				
関美耶子			理事				
御前加依子			理事				
大村隆清			理事				
雑賀耕三郎			理事			副理事長	
清水千津子			理事				
東田好史			理事			事務局長	
松森重博			理事				
道崎美幸			理事				
木村三彦			顧問				
池内 力			理事				
石田一雄			理事				
稲田英二			理事				
柏尾信尚			理事				
久門たつお			理事				
橋本 厚			理事				
清水多喜雄			監事				
今西秀次			理事				
大江弘幸			理事				
加藤宣男			理事				
松浦文子			理事				
三宅 努			理事				
西川浩司			監事				

広報グループ

広報グループの役割

1. 会報紙「ソムリエの風」の発行

年3回、4頁から8頁の会報紙を発行しています。当会のイベント紹介やシリーズの読み物で構成しています。会員向けの会報紙ですが、外部に向けた広報紙の役割も果たしています。

「ソムリエの風」の記事は、この10周年記念誌を制作する際にも大いに参考になりました。あとから会の歩みを振り返るためにもぜひとも必要だと思えます。なお会報紙のバックナンバーは、当会のホームページに掲載しています。

2. 当会ホームページの運営

毎月の花の写真などを紹介する「まほろば歳時記」、今後の催しを案内する「お知らせ」、各グループの活動を掲載する「つれづれ日記」などのほか、会員が執筆した新聞の連載記事なども載せています。

日進月歩、インターネットの世界は進んでいます。ホームページのシステムの改革も進めたいと思っています。今後はSNSなどを使って、会の活動を広めていきたいと思っています。

このたびは5周年誌に続き、皆さまのご協力を得て10周年誌を発刊できましたことに、感謝申し上げます。



奈良まほろばソムリエの会10周年記念誌

2021年7月12日

発行：NPO法人 奈良まほろばソムリエの会
〒630-8217 奈良市橋本町3-1 きらっ都・奈良 (BONDCHI)
URL：http://stomo.jp/
E-mail：info@stomo.jp

発行人：豊田敏雄 (理事長)

編集：広報グループ

制作：京阪奈情報教育出版株式会社 / M designroom

印刷：共同プリント株式会社